

## 働き方紹介

### 場所にとらわれない働き方 —テレワーク&リモートアクセス—

総務省では、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方を実現しています。テレワークとリモートアクセスは、オフィスの外からでもセキュリティを確保しながら職場のネットワークに接続する、新しい働き方です。これによって、自宅や実家、出張先からオフィスにいるときと同じように勤務できるようになりました。情報通信技術を使った働き方改革のリーダー、それが総務省です。



### 自分らしいライフスタイルを実現できる勤務時間



\*「コアタイム」という、在席する必要がある時間帯があります。

総務省では「フレックスタイム制」と「ゆう活」の導入で、ライフスタイルに合わせた柔軟な勤務ができます。フレックスタイム制は、職員の希望する時間帯\*での勤務を可能にする制度です。ゆう活は、ゆう活実施期間中(7月、8月)に勤務終了時間を前倒して、アフターファイブを充実させる制度です。子供の送迎や親の介護はもちろん、習い事といった自己啓発など、個人の都合に合わせた働き方ができます。テレワークと組み合わせれば、さらに時間を有効活用できます。もちろん業務予定の調整は必要ですが、総務省では職場の理解が醸成されています。このように、総務省は「自分らしく」働ける職場作りを目指しています。

### ライフステージの変化に対応した休暇制度

国家公務員は、年あたり20日の年次休暇が付与され、連続3日間の夏季休暇が取得できます。また、結婚や出産、育児、介護といったライフステージの変化や、自己啓発やボランティアなどの自己実現に対応した特別休暇・休業制度が設けられています。

総務省では、職員がその時々で能力をフルに発揮できるように、このような制度を使って仕事と私生活のバランスをとる環境が整っています。

### 女性も男性も安心して子育てができる職場

休暇制度を利用すると、産前・産後はもちろん、子の保育や看護のための休暇が取得できます。男性も妻の出産前後に休暇を取得することができます。また、仕事と育児の両立支援制度により、短時間勤務や育児休業(育休)などが使用できます。

総務省の女性の希望者の育休取得率はほぼ100%です。また、男性の育休取得率も顕著に伸びています。総務省では、男女とも、仕事と育児を両立しやすい環境が整っています。

### 働き方改革の立役者から

総務省では、全ての職員が働きやすく、それぞれの能力を最大限発揮し成長を実感しながら、組織として成果を出す働き方を目指さなければ理想的な政策を実現できないとの考えから、働き方改革に積極的に取り組んでいます。



● 働き方改革推進室会合

2018年1月、総務大臣政務官を顧問とし、公募による職員からなる「総務省働き方改革チーム」を結成し、職員の意識を変える「意識改革」、具体的な業務プロセスを見直す「業務改革」及び職場環境の改善やモバイルワークを活用しやすくする「インフラ整備」の3つの観点から、同年6月には対応策の提案をとりまとめました。提案のうち、すぐに実行できるものは同年7月から実施しています(幹部及び管理職の働き方宣言、柔軟な勤務時間・休暇の周知、テレワークの推進等)。

働き方改革の取組は継続的な実施による実現・実感のフェーズが欠かせません。同年11月には第2期チームを発足しており、今後とも組織全体の仕事の質や生産性を高めて行政サービスの向上に取り組んでまいります。

赤谷俊彦(p.4)

## よくある質問

Q. どのような職場で働いていますか。

A. 新宿と霞が関勤務が中心です。  
オフィス改革で快適な職場です。

理工系の事務官は、新宿区若松町にある総務省第2庁舎や、千代田区霞が関にある合同庁舎が主な勤務地です。総務省ではオフィス改革に取り組んでいて、ペーパーレス化など快適な職場環境を目指しています。



Q. 職場の雰囲気を見ることはできますか。

A. 是非、総務省のインターンに参加してください。

総務省で実施するインターンに参加していただくと、実際の職場の様子をご案内できます。過去には、国勢調査や労働力調査などの最前線の現場で、分析業務や国際業務など、職員と一緒に課題に取り組んでいただきました。

※インターンの詳細については、総務省のホームページでお知らせいたします。

Q. 統計や法律、経済の専門知識が必要ですか。

A. あると武器になりますが、入ってから身につける方も多数。

もちろん、既に持っている能力・知識があれば大いに活かします。しかし、職員全員が必ずしも入省前から統計や法律、経済などの知識・能力を修得していただくわけではありません。入省後に業務経験を積みつつ、未知の分野に挑戦する好奇心と向上心で知識・能力を磨いていきます。また、研鑽をサポートする研修も豊富です。

Q. どのような部署を経験できますか。

A. 統計行政を中心に様々な分野を経験できます。

入省後は、総務省内の統計行政に関する部局を中心に配属されることが多く、和歌山県の統計データ活用センターに配属されることもあります。本人の興味・関心や適性に応じて総務省の他部局への配属や、内閣官房、内閣府、厚生労働省など他府省への出向を経験することもあります。また、国際連合や大学に出向することもあります。

Q. どんな試験区分から採用していますか。

A. 理工系はもちろん、農学系や人間科学区分から採用しています。

現職の職員は、理工系の試験区分(工学、数理科学・物理・地球科学、化学・生物・薬学)からの採用者が多くなっています。しかし、例えば、農業科学・水産、農業農村工学、森林・自然環境、人間科学などの試験区分の合格者も、統計行政を中心に御活躍いただけます。

Q. 留学制度はありますか。

A. あります。専門性を伸ばすチャンスが豊富です!

理工系の事務官には、人事院の制度を利用して、国内外の大学院で学位を取得したり、国際機関に派遣され、業務に従事した職員がいます。